

✓公開実用 昭和54—4263

請



(3,000円)

実用新案登録願

昭和52年6月10日

特許庁長官 殿

1. 考案の名称 ランプ用ショウセイ用器具

2. 考案者

住所 石川県松任市相木町383番地

日本硬質陶器株式会社内

氏名 氷島清

3. 實用新案登録出願人 T924

住所 石川県松任市相木町383番地

氏名 日本硬質陶器株式会社

代表者 三谷進

TEL 0762(76)2121

4. 添付書類の目録

- | | |
|-------------|----|
| (1) 明細書 | 1通 |
| (2) 図面 | 1通 |
| (3) 願書副本 | 1通 |
| (4) 出願審査請求書 | 1通 |



方式
審査

52 076310

54-4263



明細書

1. 考案の名称

陶磁器焼成用治具

2. 実用新案登録請求の範囲

耐火性材よりなる環状体の内側に3個以上の浅物受部を突設し、この受部の先端部を斜下方へ折曲延長させて深物受部を形成させ、各受部の上面に凹入孔を設けた支承主体と、基部を前記凹入孔に合致する形状とし、上部を尖頭状に形成した耐火性支持爪の数個とよりなる陶磁器焼成用治具。

3. 考案の詳細な説明

本考案は耐火性材で形成された環状体(1)の内側に3個以上の浅物受部(2)を突設し、この受部の先端部を斜下方へ折曲延長させて深物受部(3)を形成させ、各受部の上面に凹入孔(4)を設けた支承主体と、基部(5)を上記凹入孔(4)に合致する形状とし、上部(6)を尖頭状に形成した耐火性支持爪の数個とよりなる陶磁器焼成用治具にかかるものである。

そして、支承主体の受部に設けた凹入孔に支持爪を嵌挿し、この支持爪の上に被焼成物を載せて

(1)

54-000-3

公開実用 昭和54—4263

窯中において焼成するのである。

従来、試みられたのは第6図に示すように耐火材よりなる環状体(7)の内側に被焼成物受部(8)を突出形成し、この受部上面に円錐部(9)を突設して支承主体を構成し、この支承主体の円錐部(9)に、内部空虚の耐火性円錐支持爪(10)を冒嵌し、その上に被焼成物(11)を載置し、これを窯内に入れて、焼成したのである。

ところが、第6図に示すものは受部の傾斜状態から見てこれは明かに浅物（例えば浅皿）用にしか使用できないのであって、これは深物（例えば深皿）には使用できない。深物に対しても受部(8)の傾斜を更に大きく下方へ伏せるようにしなければならないので、これに対応する深物用の支承主体を別個に用意しなければならない。

それのみならず、被焼成物の支持は、受部上に突設した円錐部に冒嵌した円錐状支持爪によつて行われるのであるから、深物を焼成するための受部を下方へ大きく傾斜させた支承主体を使用する場合、前記支持爪は突出円錐体上においてきわめて外れやすい状態において支承される。従つて、

この支持爪上の被焼成深物もまた、不安定な状態において支承されることになり、深物焼成時には特に細心の注意が必要となり、作業能率上支障があつて好ましくない。さらに、焼成後、支持爪が円錐突起から脱落して散逸するおそれがあり不都合であつた。

本考案は既記のように浅物受部(2)と深物受部(3)とが一体的に連設されているので、浅物を焼成する場合には浅物受部(2)における凹入孔(4)に支持爪の基部(5)を嵌挿して、この爪の尖頭部(6)上に浅物ぬを支承させて焼成作業を行ない、また、深物を焼成するに当つては深物受部(3)における凹入孔(4)に支持爪の基部(5)を嵌挿し、この爪の尖頭部(6)に深物(3)を支承させて焼成作業を行なえばよいわけであるから、ただ一種の支承主体で深物浅物の両者に対応して使用できるので、頗る便利であることは明かである。

さらに、被焼成物受部に凹入孔を設け、この凹入孔に支持爪の基部を嵌挿支持させて、支持爪は受部にきわめて安定した状態において支持され、脱落する心配がなく、従つて、被焼成物 자체

公開実用 昭和54-4263

も安定した状態で支承され、焼成作業が円滑に行われ、また、作業後においても支持爪が脱落して散逸するおそれがない。

前記凹入孔は、実施例においては、環状をなし、支持爪の基部が筒状をしており、環状の凹入孔に支持爪基部の筒状部が嵌挿されるので、嵌挿された支持爪の脱落は十分に防がれる。

4. 図面の簡単な説明

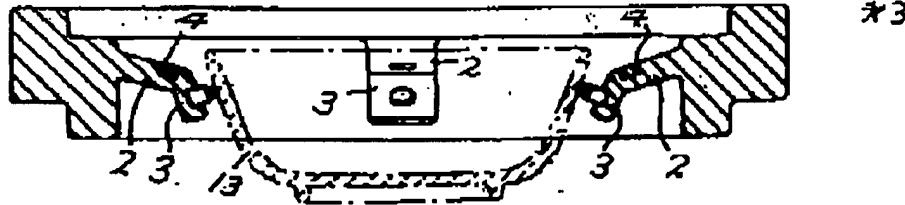
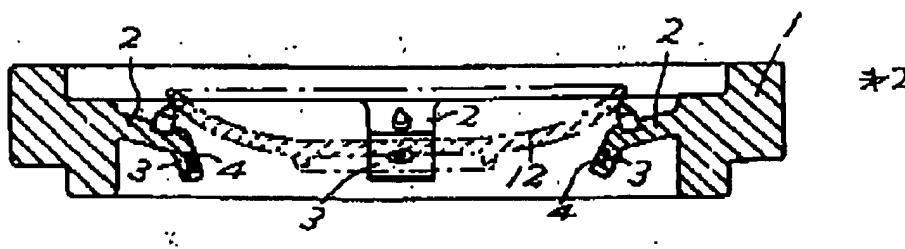
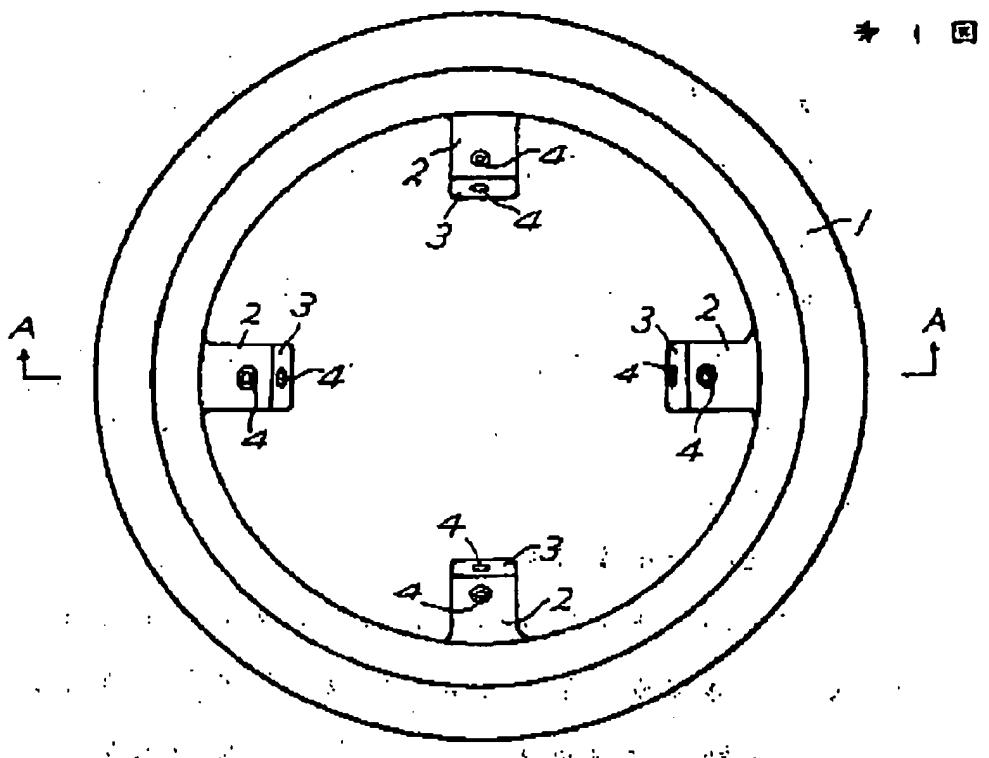
第1図は支承主体の平面図、第2図、第3図は支承主体に支持爪を装着して第1図のA-Aにおいて切断した縦断面図で、第2図は被焼成物が浅物の場合、第3図は深物の場合の各使用状態を示し、第4図は支承主体の一部の拡大断面図、第5図は支持爪の拡大縦断面図、第6図は従来の支承主体の使用状態の一部の拡大断面図である。

- (1)…環状体、(2)…浅物受部、(3)…深物受部、(4)…凹入孔、(5)…支持爪の基部、(6)…支持爪の上部

実用新案登録出願人 日本硬質陶器株式会社

代表者 三谷進

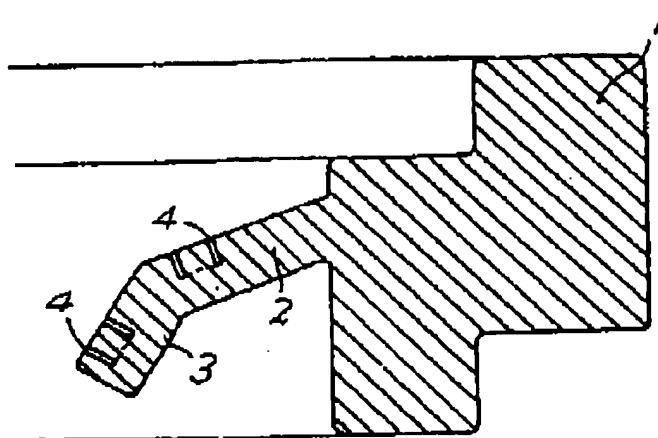




426.3 1/2

实用新案登録出願人 日本磁瓦陶器株式会社
代表者 三谷道三

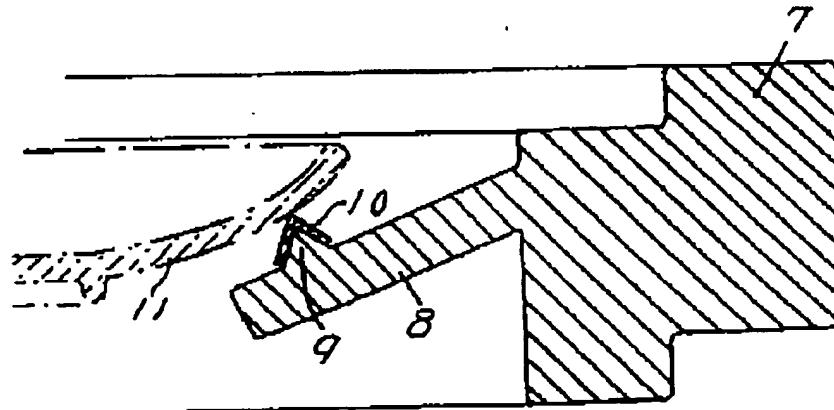
公開実用 昭和54—4263



＊4 図



＊5 図



＊6 図

实用新案登録出願人 日本磁質陶器株式会社
代表者 三谷道三